

## 【1月の気象】

1月は月平均気温の平年値で見ると最も寒くなる月です。季語では、「新年」「元旦」など年の初めを表す言葉も多いですが、「雪」「氷」「冬日」など、寒さを表す言葉も多くあります。

季語にある冬日は、最低気温が氷点下となる日を言います。松山の冬日日数は昔に比べ大きく減っています。1950年ごろまでは年間に50日を超える冬日日数がある年も珍しくありませんでしたが、近年は10日未満の年も多く、0日となった年もあります。前年度の冬は概ね平年並みの気温で、冬から春にかけて（2024年12月～2025年4月）のアメダス地点の冬日と、期間中の最低気温を表1に示します。

表1 アメダス地点の冬日日数と最低気温(2024年12月～2025年4月)

地点	大三島 (今治市)	今治 (今治市)	西条 (西条市)	新居浜 (新居浜市)	四国中央 (四国中央市)	松山 (松山市)	松山南吉田 (松山市)	長浜 (大洲市)	久万 (久万高原町)	大洲 (大洲市)	瀬戸 (伊方町)	宇和 (西予市)	宇和島 (宇和島市)	近永 (鬼北町)	御荘 (愛南町)
冬日	49	20	21	29	16	10	11	9	88	40	9	54	15	45	11
最低気温	-5.4	-3.3	-3.2	-3.6	-2.4	-2.4	-2.2	-2.3	-9.0	-4.4	-2.3	-8.2	-2.8	-6.7	-2.4

ちなみに、松山の真冬日（最高気温が氷点下）は過去に5日あり、最後の真冬日は1984年2月7日（最高気温 - 0.1℃）です。前年度の冬にアメダス地点で真冬日を観測したのは、久万のみで4日です。

地球温暖化の影響で冬季の気温も上昇傾向で、冬日日数も減る傾向です。松山については、都市化の影響も加わっています。季節予報（3ヶ月予報、寒候期予報）では、今冬季は平年並みの寒さが予想されており、強い寒気が入れば大雪や寒い日もあります。体調管理や農作物の管理など注意が必要です。

## 【気象用語】「推計気象分布」とは

「推計気象分布」は、アメダスや気象衛星の観測データ等をもとに天気・気温・日照時間のきめ細かな分布を算出し、視覚的に把握できる情報です。こちらを利用することで、アメダスなどの観測所のない場所の状況も把握できます（図1）。

この情報は、面的には1km四方のメッシュの細かさで、天気は5種類（晴れ、くもり、雨、雨または雪、雪）、気温は0.5℃毎および日照時間は0.2時間毎のそれぞれの単位で表し、1時間毎に更新します。アメダス等の観測所を含むメッシュの値は、そこでの観測データとは必ずしも一致しませんので、面的な広がりに着目してご利用ください。降水の有無は、解析雨量や雨量計の観測値をもとに判定し、降水ありの場合は気温と湿度の推計値から雨雪の判定をしています。なお、図1左図は12月3日23時の天気で、その少し後に松山で今季の初雪（みぞれ）を観測しています。

なお、春分（4月頃）及び秋分（9月頃）の0時（日境界）頃において、気象衛星ひまわりの太陽自動回避機能による画像欠損及び観測休止の影響を受けて一部が資料なしとなることがあります。気象官署（松山、宇和島）を除く地点の日照時間は、2021年3月から日照計による観測ではなく推計気象分布による推定値を使っています。

推計気象分布はこちら → <https://www.data.jma.go.jp/bunpu/?4032&suns>

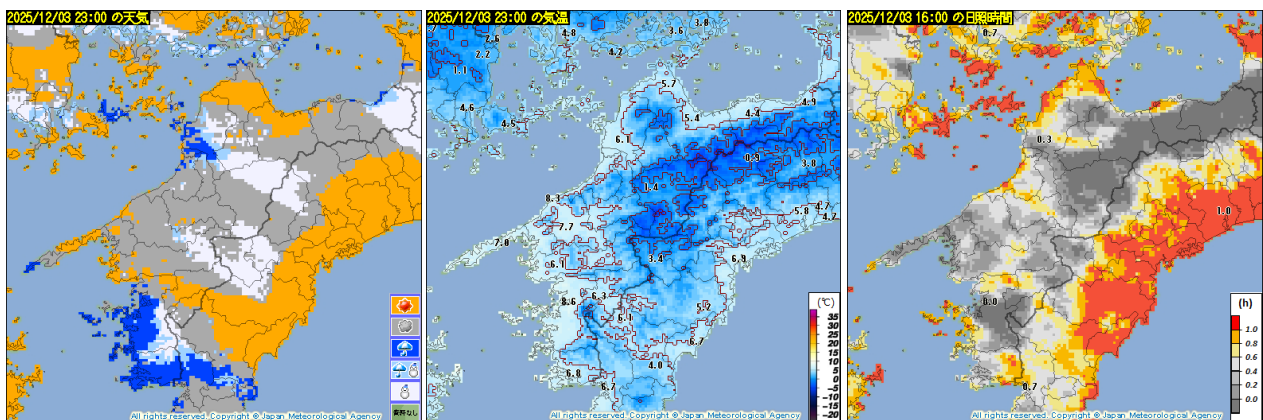


図1 推計気象分布の例(左から、天気、気温、日照時間)

※天気・気温・日照時間の切り替えは「要素選択」で行います。

※気温と日照時間分布の拡大図では、同時刻の気象官署やアメダスの観測値を重ねて表示します。